

会 議 録

会議の名称	第1期 小金井市地域自立支援協議会（第4回）
事務局	福祉保健部障害福祉課、地域生活支援センターそら
開催日時	平成21年11月19日（木） 午後2時00分から午後4時00分
開催場所	前原暫定集会施設 B会議室
出席者	【委員】 伊藤良子委員(会長)、越永至道委員、森田純司委員、大久保昌弘委員 矢野典嗣委員、秦郁江委員、富澤淳一委員、山田満里子委員、 久芳和孝委員、中村悠子委員、佐久間育子委員(副会長) 【事務局】 福祉保健部長 小俣敏行 地域生活支援センターそら 施設長 熊倉弘子、伊藤奈保子
傍聴の可否	可
傍聴者数	0人
会議次第	別紙会議録のとおり
会議結果	別紙会議録のとおり
提出資料	添付のとおり

平成 21 年度第 4 回小金井市自立支援協議会 議事要旨

日時：平成 21 年 11 月 19 日(木) 14:00～16:00

場所：前原暫定集会施設 2 階 B 会議室

出席者：協議会委員 11 名

小金井市福祉保健部長

地域生活支援センター そら (2 名)

配布資料 1：第 3 回地域自立支援協議会議事録 (仮)

2：地域自立支援協議会運営マニュアル (10・11 ページ抜粋)

3：小金井市地域自立支援協議会設置要綱

4：グループかがわ → 中村委員

5：小金井市障害者・児支援ネットワーク → 中村委員

6：学校要覧 平成 21 年度 (東京都立小金井特別支援学校) → 矢野委員

7：小金井市ネットワーク構想案を立てるために → 矢野委員

8：第 2 章 小金井市の特別支援教育の現状と課題 → 矢野委員

9：小金井アートフル・アクション「アートで障害という境界を越える」 → 山田委員

10：障害者週間 特別講演会「障害のある人とめぐりあい・ひびきあう街づくりに向けて」

開催にあたって、事務局より資料の確認。

1. 開会

事務局	・越永委員より、遅刻の連絡あり。秦委員は、都合により 15 時にて退席される。
伊藤会長	・出席者 11 名 (欠席 1 名) により、協議会は成立とする。

2. お知らせ

伊藤会長	・山田委員より、お知らせをお願いしたい。
山田委員	・障害者週間の特別講演会についてお知らせ (ちらし参照)。これまでの講演会のようにひとつの障害にスポットを当てるのではなく、今年は横断的に障害のある人がどのように地域で暮らしているのかということテーマに加瀬先生に講演会を依頼した。講演会終了後、「こころのマップ」の障害の特性を抜粋したパネルをご覧いただける時間を 30 分程設け、障害別に質問に答えられる担当者を配置する。自立支援センターの相談員からアピール不足の指摘もあり、そのパネルも配置し、アピールをする予定。 ・小金井アートフル・アクションについてのお知らせ (資料参照)。もう少し検討が必要な部分もあり、改訂版が近く配布される予定。
伊藤会長	・委員各位からも周知をお願いしたい。

3. 議題

(1) 各団体の紹介及び現状（ネットワーク等）、課題について

伊藤会長	<ul style="list-style-type: none"> ・前回に引き続き「各団体の紹介及び現状、課題について」を行なう。 ・はじめに、中村委員から紹介をお願いしたい。
中村委員	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉法人雲柱社で作成している「グループかがわ」（資料参照）の紹介。 ・「小金井市障害者・児支援ネットワーク」（資料参照）は小金井市内で行っている事業をまとめたもの。 ・当初は小金井市内の利用者だけではなかったため、小金井市に対してという方向性がなかなか持てていなかったが、やはり地域とのつながりの重要性を感じ、平成10年に小金井市福祉共同作業所を小金井市から受託。その頃から小金井市とのつながりを持つようになり始めた。 ・移動支援のニーズがありながら、実施するところがなかった。「かがわサポートセンターウイングス」事業は、赤字事業を覚悟しながら運営を実施している。 ・グループホーム連絡会は、小金井市内のすべてのグループホームが集まる機会となっていて、開催頻度は多くはないが情報収集等に役立っている。 ・作業所については、自分たちの法人内だけでぐるぐると回っているだけで、さくら会との連携する機会は持てていないため、その必要性は感じている。 ・地域での受け皿がないという声に、定員を超えて受け入れて（定員の120%まではOK）はいるが、それも限界。しかし、どこにも行き場所がない人たちの行き場の確保等、今後検討していかなければならない課題である。
伊藤会長	<ul style="list-style-type: none"> ・一番の課題は、やはり卒後の問題か。
中村委員	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児は「かがわ学園」が受け皿とはなっているが、待機の方が生じている状況もある。35名の定員の内、33名が毎日利用。あとの30名以上は、週1回の利用。保育園・幼稚園に行きながら、それだけでは難しいという母親からの話も含め、そこをカバーしていくために、週1回の利用を増やしていくという形へと変化している。 ・就労の場所、生活の場所が絶対的に少ない。 ・小金井市の障害のある人の高齢化の問題は、考えていかなければならない。保護者も利用者も高齢という状況の中で、入所という選択がなかなか出来なくなっている。さくら会も同様な状況にあると思われる。しかし、その状況をどのようにしていこうかという具体的な話し合いの場が持てていない。すみわけの検討も必要。
伊藤会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ニーズに沿って、事業の拡大を進めている現状と課題がうかがえた。 ・さくら会の話しも出ていたので、山田委員からの意見をお願いしたい。
山田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いを持つ機会があまり持てていなかった。同じような悩みを抱えながらいる状況がわかった。横のつながりを考えていかなければならない必要性を感じた。
中村委員	<ul style="list-style-type: none"> ・イベントなどで会う機会は多くあるが、定例的な会合の場はなく、顔を合わせたその場の話しだけとなってしまう。今後は、もう少し建設的な話し合いの場が必要になってくると思われる。
秦委員	<ul style="list-style-type: none"> ・「かがわ学園」は、小金井市内に限られていないということだが、他のサービ

	ス部門に関しては制限等どうなのか。
中村委員	・小金井市福祉共同作業所は、小金井市内という制限はあるが、他はない。高等部を卒業した18歳以上の方が希望されるのがほとんど。
矢野委員	・広域支援となっている。
伊藤会長	・続いて、矢野委員から紹介をお願いしたい。
矢野委員	<p>・学校要覧について紹介（資料参照）。小・中の義務教育学校として、35年程前に小金井市に設置された。80名程度の規模の学校となっているが、3年もしないうちに100名を超え、増加が続いている。今年は150名、来年は160名となっており、教室不足が問題ともなっている。</p> <p>・小金井市、武蔵野市、小平市、西東京市の4市が通学区域の対象となっている。</p> <p>・ほとんどの生徒がスクールバスを利用して通学。6台のバスを所有しているが、かなりギリギリの時間の中、運行している。</p> <p>・特別支援教育という流れの中で、学校に専任のコーディネーターを配置し、地域の心障学級などに対応している。しかし、専任のコーディネーターを配置する定数がついていないため、学級担任を減らして、コーディネーター活動を担っている。</p> <p>・小金井市の現状を考えながら、ネットワークについてのイメージ図を作成（資料参照）。</p>
山田委員	・2年後には小金井市の特別支援学校の学区が変わるという話を聞いたが、どうなのか。
矢野委員	・第二次教育推進計画という中で平成24年に、西東京市の区域が石神井特別支援学校へ変更するという事になっている。現在、西東京市の20名が移るということになるだけであり、大きな人員減とはならないと思われる。
山田委員	・小金井の中央線から南側は、新しくできる府中の学校へ移るという話を聞いた。
矢野委員	・府中朝日特別支援学校と府中特別支援学校が一緒になる。以前は一緒だったが、別にし、また統合されることに。毎日の給食が600食になるという規模の学校が出来上がる。府中朝日特別支援学校の校庭に、小・中の校舎を建設し、府中特別支援学校とし、府中市と小金井市の南側を学区にするという話になっている。小金井市の南側の生徒は多くない。現在でも9名。現実的な小金井市特別支援学校の過密人員の対策とはならないと思われる。
中村委員	・石神井特別支援学校は、生徒数が多くないのか。
矢野委員	・現在がちょうどよい状態。区域が変われば、小金井と同じ現象は起こることが予想される。
富澤委員	・たらい回し状態なのか。
矢野委員	・その通り。過密現象に対する改修の検討もなされたが、移転先が府中となってしまい、2年間といえ、小平市や西東京市の生徒がスクールバスを利用して2時間も通学にかかってしまう状況となり、反対の声も上がり、改修の話はそのままなくなってしまった。

	<ul style="list-style-type: none"> ・現状は、人権侵害と感じているが、なかなかひっくり返すことはできない。もう少し、小金井市との話し合いをし、土地の提供など検討がなされるとよかったように思う。縦割りの行政の中うまくいかなかった。
伊藤会長	<ul style="list-style-type: none"> ・どこの特別支援学校も、教室不足は深刻。
矢野委員	<ul style="list-style-type: none"> ・永福学園など新しい学校が建て直されているが、企業就労が100%の学校で、自力で通学できない生徒は入学できない。障害が重い子が利用できず、そこからこぼれた人達は、普通学級に入る現状がある。地域格差があると思われる。
秦委員	<ul style="list-style-type: none"> ・小金井市の子どもが9名という少なさは、他の地域へ行っているということなのか。
矢野委員	<ul style="list-style-type: none"> ・実際は、もう少しはいると思われる。市内の心障学級や普通学級に通学しているのではないかと。保護者の希望で、普通学校へという話になることも多くある。 ・小金井特別支援学校は80%が自閉症で、自閉症に特化したような学校になっている。ダウン症の子どもは来たがらないのが現状。
伊藤会長	<ul style="list-style-type: none"> ・分析については、どのようにされているのか。
矢野委員	<ul style="list-style-type: none"> ・各自治体で特別支援教育推進協議会のようなものが設置され、検討がなされているはず。
伊藤会長	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の支援計画のようなものはあるのか。
矢野委員	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれのところでシートを作成しているのかもしれないが、不明。共通のシートは提示したものになる(資料参照)。八王子市と狛江市がモデル地区となり、できあがったシートとなっている。
秦委員	<ul style="list-style-type: none"> ・1歳半検診や3歳検診などでおおむね障害が判明する。小学校へは、情報が届かず先生たちも対応に動揺してしまう。本来であれば、その経過表があればよいのではないかと話もあり、そこが課題となっている。なかなか至らないのが現状。
矢野委員	<ul style="list-style-type: none"> ・きちんと情報がいってれば、就学前の検診結果に対してケアできるサービスがあり、その後の介入の必要性についての話しもできる。それをきちんと追っていけるようなシステムがあるといいと思う。発見した所とその先との関係を組み立てていかないと、ネットワークができていかないのではないかと。 ・小金井市だけで、対応できないのであれば、周辺の広域の支援を検討したり、そこから東京都、国レベルまで広がっていくようなエリア別のネットワークの検討が必要。
中村委員	<ul style="list-style-type: none"> ・「ちょっと行ってみたらどうですか？」という声かけで、なんとかしたいという気持ちから通所を検討されるも、ここが障害児通園施設と表記されていることで、この施設に通ったという経歴が、この子に一生つきまとうのではないかと保護者の気持ちが生じる。手帳の取得も同様。ネットワークができてしまうことで、それが現実になってしまう。現在は、学校へは情報は行かないというやりとりの中で通園を決断されるケースもあり、一概に言えず難しい。
小俣福祉保健部長	<ul style="list-style-type: none"> ・発達障害者支援センターの設置の必要性を感じており、先日、子ども家庭部長と共に中村委員の施設へ見学に行かせていただいた。

	<ul style="list-style-type: none"> ・健康課では、何らかのサポートが必要な子どもに対して、保護者への働きかけをし、年に数回経過観察をする教室を設けている。保育園に行く時に、そこが切れてしまうのはよくないと感じており、取り組まなければならない課題である。 ・支援パスの作成を検討している。ケースとのつながり、教育支援計画としてつながっていく。支援パスの具体化についてご協力をお願いしたい。 ・支援センターを設置し、中継できる部署として実現したい。試行的にも進めていきたい。 ・先程、中村委員からも出されていたが、保護者の気持ちをどのように支えていくのかということは、大きな問題としてとらえている。
伊藤会長	<ul style="list-style-type: none"> ・一生涯支えるということ、将来を見据えた支援を検討していかなければならない。今後の大きな課題として捉えていく。 ・続いて、大久保委員より商工会の紹介をお願いしたい。
大久保委員	<ul style="list-style-type: none"> ・特にない。どの部分をどのように伝えるのか見えていない。委員の方から商工会のどのような部分について知りたいのか出してもらいたい。 ・就労の窓口としてこのようにしてもらいたいなどあれば出してもらいたい。 ・現在、小学校の体験の取り組みなどを受けているが、それに似たような依頼であれば検討できるが、まだ要請はない。
矢野委員	<ul style="list-style-type: none"> ・小・中学校で職場体験実習を実施。特別支援学校でも同様。まだ早いのではないかという感じもするが、さくら工房にお願いして半日だけ体験実習をさせてもらったことはよい経験となった。生徒のみならず、小・中学部の先生達もなかなか現場に行く機会がないため、とてもよい機会だった。 ・企業での職場体験や職場見学については、今後の課題となっている。生徒 24 名に対し、教員 8 名という少ない人数で対応しているため、どこでもよいというわけにはいかず、場所を選択しなければならない。 ・商工会の中で、普通教育同様に職場体験の場所として可能な職種など、事前に協力してもらえる職場の情報を、ネットワークとして就労支援センターを含めて検討できればとも思う。
大久保委員	<ul style="list-style-type: none"> ・現状はまったくない。ただ、声をかけていただければ進まない。
森田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者週間のポスター掲示で、南口商店街の皆さんにご協力をいただいたことに感謝している。なかなか声をかけて行動するというのが大変な当事者の方に対し、主旨を理解し、協力をいただいたことで当事者の方にとってもよい機会をなった。
大久保委員	<ul style="list-style-type: none"> ・当事者の方と接する機会がないので、あのような機会はとてもよい機会だと感じている。そこから次のステップとして、障害の重い方との交流も少しずつできるようになっていく。 ・交流の機会を設けることで、こちら声もかけやすくなるし、きっかけも増える。そこから少しずつ理解するお店が増えていくのではないかな。
富澤委員	<ul style="list-style-type: none"> ・直接働ける場所ということではなく、職場見学という機会を設けていただけるだけでもありがたい。そこからさらに、職場実習のような具体的に受け入れてもらえるような動きになれば、就労支援センターを含めながら、地域の中に

	働く場所の確保ができればと思う。
大久保委員	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な提案がなければ難しい。一般のお客さんが来ている中で、合わせて対応するのは大変なこと。いつでもよいという形での受け入れは難しいし、希望者を募ることも難しい。 ・障害のある方の理解については、関係者の方々と比べ、商工会は異なる理解にある状況。
佐久間副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・就労支援センターからアプローチをし、商工会との間で話しを具体的に進めていくことは可能か。
大久保委員	<ul style="list-style-type: none"> ・可能。商工会だけではなく、商店会の会長の連合会もある。 ・さくら作業所の利用者さんなど、お客さんとして来てくれているし、働いている様子も見てるので、今いる施設からその先のステップについても考えていくこともできるかもしれない。 ・しかし、経験のない人が、いきなり障害のある人を受け入れることは難しいため、より社会の中に入っていくことをこちら側が提案していくことで、ケアが必要な人を受け入れることができるかもしれない。
山田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・今年から、さくら会が商工会の会員となった。それによって、イトーヨーカドーの一角で行なわれた「地域フェア」に 5 日間出店した。初めての経験であり、初日は職員が担当したが、その後は利用者が店番に立ち、普段とは違う経験をすることができた。年に 3~4 回ある予定。
佐久間副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・そのような取り組みの紹介をいただくことはとても参考になる。
伊藤会長	<ul style="list-style-type: none"> ・続いて久芳委員からお願いしたい。
久芳委員	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの話の中で、精神や知的の話は多いとは感じたが、小金井市で身体の話は少ないと感じた。
矢野委員	<ul style="list-style-type: none"> ・障害としては、多い障害の一つ。
久芳委員	<ul style="list-style-type: none"> ・多いという割には見かけない。 ・小金井市の身障協会に入っているが、自分より年齢の高い人ばかり（60 代～70 代）で、若い人が参加しにくい。
伊藤会長	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の会議でも、山田委員からも高齢化について話があった。同様の課題なのか。
久芳委員	<ul style="list-style-type: none"> ・仕方がない問題なのかもしれない。身体の場合は、車の運転もある程度できるし、福祉タクシーも普及してきている。自由に出歩くこともできる。昔の団体の役割は終わっているのかもしれない。今後は、個々のニーズをどのように反映していくのが問題。
矢野委員	<ul style="list-style-type: none"> ・知的・身体の高齢の方は、障害者福祉センターしか行き先がない。しかし、定員もあふれている状態で、今後検討していかなければならない。
佐久間副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・身体の手帳保有者数は、平成 21 年 3 月末で 2,467 名。その内の約半数が 70 歳以上。知的は 467 名中、70 歳以上は 9 名となっており、割合的には低い。 ・若い方の少なさについては、PR がいきわたっていないことも考えられるため、周知の仕方も充実していかなければならない。 ・障害者自立支援法が施行されて、平成 23 年度末までに新体系に移行しなければ

	<p>ばならない問題の中、新体系に移行すると、今度は介護保険との問題も絡んでくる。高齢化が進む中で、施設のあり方も考えていかなければならない。65歳以上の方を、介護保険の施設へと移行することについて、容易ではない現状もある。</p>
伊藤会長	<ul style="list-style-type: none"> ・越永委員からお願いしたい。
越永委員	<ul style="list-style-type: none"> ・情報提供として報告。東京都社会福祉協議会に知的発達障害部会があり、その中の経営研究会にて、10/21 民主党の石毛議員から「これからの障害者福祉の展望について」の講演があった。障害者自立支援法から障害者総合福祉法の青写真について話があったが、目玉としては、応能負担にするということが挙げられていた。その他、難病の方の支援や発達障害者支援など挙げられてはいるが、これから先どこからどのように動いていくのかという具体的なことははっきりとわかっていない状況。 ・また、1期4年の間に着手をするという話だったが、おそらく順番としては、かなり後半の時期に障害者自立支援法から障害者総合福祉法への検討がはかられると思われる。
久芳委員	<ul style="list-style-type: none"> ・マニフェストでも後半の方だった。
矢野委員	<ul style="list-style-type: none"> ・長妻厚生労働大臣は、障害者自立支援法について廃案にすることをすでに言及しているため、そのことは確実だと思われる。しかし、その先のことは不明確であるため現場は困惑する。
越永委員	<ul style="list-style-type: none"> ・柱としてあるものについて記載されている資料を1部ずつ用意してあるので確認願いたい。→資料参照。
伊藤会長	<ul style="list-style-type: none"> ・貴重な情報提供に感謝する。
佐久間副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・来年の4月から、低所得者の利用者負担について、現在1500円～3000円のところをなくすという方向であるという情報は入ってきている。廃案については不明。
伊藤会長	<ul style="list-style-type: none"> ・吉沢委員から報告をお願いしたい。
吉沢委員	<ul style="list-style-type: none"> ・平成13年から地域生活支援センターの立ち上げを目指し、12月頃からNPO法人立ち上げに向けて動き始めた。平成14年4月に設立され、平成18年から地域活動支援センターI型を受託。平成20年度からデイケア事業を市から受託。そら・デイケアのパンフレットを資料として提供。 ・交流室の利用(前年比400件増)、相談の件数(前年比2800件増)共に増加している状況。対応に追われる中、求められるニーズにこたえていくことが課題となっている。 ・市内外への会議等へ出席しながら、ネットワークの構築に努めている。 ・平成18年10月から小金井市直営で開始された事業を、平成20年4月より、当協議会で受託。受託にあたり、地域の作業所と協議を重ねた。デイケア事業を受託したことで、センターとデイケアという選択肢が広がり、利用者へのサービス提供が変化。 ・指定相談支援事業は、相談支援専門員2名がその業務を担当している。しかし、他業務との兼ね合いから、実質1名のみがその業務を行なっている現状が

	<p>ある。昨年のサービス利用計画作成は、17名分となっており、今年度さらに増加している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題について、理事会の体制基盤や交流室の場所の問題も挙がっている。 ・行政を含め、何かあった時に対応できる関係作りを行っている。
伊藤会長	<ul style="list-style-type: none"> ・この件について、小俣部長いかがか。
小俣福祉保健部長	<ul style="list-style-type: none"> ・市内の精神に障害のある方の支援にあたっては、横断的な組織作りを検討している。 ・スペース(場所)の問題については、市としても課題として認識している。 ・市役所職員の退職者の中で、福祉に関心のある職員が福祉の活動を今後のライフワークにしていくこともあると思われる。そのような形でも支援していただければと思っている。
事務局(熊倉)	<ul style="list-style-type: none"> ・吉沢委員の補足として報告させていただく。市内に作業所4ヶ所。センターが1ヶ所。利用者については、統合失調症の方が約4割。それ以外の方々の利用も多くなっており(統合失調症から病名が発達障害へ変更されることも多くある)、これまでの対応のあり方とは異なる部分に難しさを感じている。 ・限られたスペースの中、より多くの方が利用していただけるように、今年度から交流室の利用時間の制限やプログラム参加の条件などを設け、試行錯誤をしながら検討を重ねている。 ・ただ、スペースの問題だけではないことも現実。そのことを慎重に評価しながら、検討をしている。
伊藤会長	<ul style="list-style-type: none"> ・青年期に2障害なのか併存障害なのか議論がわかれるところでもあるが、精神疾患だということも多くある。反対に精神障害だと思われていた方が、成育歴などからアスペルガーや発達障害だったということもあり、そのことが最近になってわかってきた。そのため専門的に判断できる医師も少ない。 ・そらの現状は、他でも感じられるため、もう少し議論を深められたらいいと思うが、時間の関係もありここで終了とさせていただく。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・秦委員からの報告も残っているため、次回へとつなぐことに。

(2) 今後の方向性について

伊藤会長	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な方向性について、佐久間副会長から報告をお願いしたい。
佐久間副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・地域自立支援協議会の設置要綱(別紙参照)の第3条協議事項の第1項～第3項までがわかりにくい部分があることと、委員各位の認識の違いがあるように思われるため、今後、自立支援協議会を運営していく中での簡単な手順を説明させていただく。 ・委員各位から報告いただいた各団体の活動内容及び現状と課題を一覧表にまとめ報告させていただく。その中で、どのようなネットワークの構築ができるのかということにつなげていきたい。 ・これまで出された課題を明確にする。現在のネットワークを活用して、解決することができる課題とできない課題とに分ける必要がある。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 困難事例の対応のあり方についての協議や調整をはかるという場であり、個別のケースを検討していくのではなく、あくまでもこの協議会は、コーディネートしていくような場であるという役割を明確にし、共通理解する必要がある。 ・ 個人情報に抵触しない程度の事例を提示してもらい、この協議会のネットワークを活用し、該当団体や施設においてケースカンファレンスを行なう等の方向性を示していく。 ・ 後日、詳細については事務局から文書にてお知らせをする。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自立支援協議会運営マニュアルから抜粋した資料。佐久間副会長から報告があったことに、補足的に資料として配布している。
伊藤会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 後日、事務局から文書が届く内容について委員各位で確認いただき、検討をお願いします。加えて、事務局から提起されていた事例検討についても次回へと持ち越す。 ・ 次回が最終回。基本的な考え方を整理したい。 ・ 次回の会議までに用意できるのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1月の会議に向けて、準備する。

(3) 「事例検討」について

→ 時間となったため、次回持ち越しの議題となる。

4. その他

伊藤会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 何か発言等あればお願いしたい。
一同	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特になし。
伊藤会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全ての次第を終了する。事務局から連絡事項等あればお願いします。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第3回の議事録を配布。内容確認の上、訂正等があれば、27日(金)までに事務局へご連絡をお願いしたい。 ・ 次回は、1月21日(木) 小金井商工会館(萌え木ホール)3階B会議室。 ・ 市報へ掲載する予定のため、次回の議事内容を検討したい。
佐久間副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 運営に関することを検討することが必要と感じる。「自立支援協議会の運営内容について」としたいがどうか。
一同	<ul style="list-style-type: none"> ・ 異議なし。

以上